

# 阿蘇市の一年は こんな年でした！

阿蘇ジオパークの世界認定、阿蘇医療センターの開院など、2014年は阿蘇市の未来を語る上で重大なニュースが数多くあった一年でした。この特集では、2014年を写真とともに振り返ります。ことしは阿蘇市誕生10周年の年。節目の年に相応しい一年になることを願います。



❶ 2月13日から14日にかけて雪が降り、山間部では70センチを超える記録的な積雪を観測。農業関連では126カ所で約2億6千万円の被害があった。❷ 内牧温泉街繁栄会が2月に多目的ホール「Art-chi (あーとち)」を開設。地域の憩いの場としてさまざまな催しが開かれている。❸ 4月6日、西湯浦牧野で半世紀ぶりに野焼きを再開。牧野組合員やボランティアなど105人が火を入れ、北外輪山約45畝の野焼きを実施した。❹ 平成24年の豪雨災害により県による河川激甚災害対策特別緊急事業が本格的に開始される。宅地嵩上げ工事もことしから着工予定。❺ 旧阿蘇中央病院は老朽化と救急医療体制の強化を理由に、新たに阿蘇医療センターとして新築移転され8月6日に開院。高度医療機器の導入や救急対応設備が整備され、阿蘇医療圏の中核を担う病院として生まれ変わった。



⑥ 7月3日、大規模ベリーリーの生産・販売を展開する(株)果実堂との間に農業振興等の協力協定を締結。年間50トンのベリーリーの生産を目標に展開。⑦ 8月12日、阿蘇草原保全活動センター「草原情報館」が着工。ことし4月から運用予定。⑧ 9月23日、阿蘇ジオパークが3度目の挑戦で世界ジオパークネットワーク加盟認定。阿蘇火山博物館に集まった関係者が発表の瞬間、歓喜に沸いた。⑨ 11月10日、一の宮中校区統合小学校（仮称）の建設工事に着手。鉄筋コンクリート造2階建ての校舎と体育館を建設。平成28年4月開校を目指す。⑩ 11月6日、阿蘇くじゅう国立公園指定80周年記念式典が開催され、草原景観維持などの功績者に表彰状が贈られた。⑪ 11月25日、阿蘇中岳が小規模噴火。22年ぶりにマグマ噴火が発生し、火口周辺にはスコリアと呼ばれる噴石が多数飛散した。（阿蘇火山噴火関連記事は8・9ページに掲載）



6



7



8



9



11



10



# 阿蘇中岳 小規模噴火

降灰や風評被害で影響広がる



昨年8月30日に、噴火警戒レベルが1（平常）から2（火口周辺規制）に引き上げられ、やや活発な活動が続いていた阿蘇中岳第一火口が11月25日午前、小規模噴火しました。

以来、連日噴火が続き、火山灰は大分県豊後大野市や熊本市にも降りました。波野地区のキャベツや白菜などの農作物の被害のほか、阿蘇くまもと空港では欠航が相次ぎ、観光客が減るなど阿蘇地域周辺の観光

面にも影を落としました。小規模噴火を受け、阿蘇市など周辺自治体でつくる阿蘇火山防災会議協議会は12月4日、臨時総会を開き、ロープウェイ乗り場がある阿蘇山上広場付近の夜間の安全確保のため、道路を閉鎖し夜間の立ち入りを規制する決定をしました。また、11月28日には、大規模噴火を想定し警察や消防、自衛隊、医療機関など36機関と合同で防災訓練を実施。今回は小規模噴火が



写真提供：阿蘇テレワークセンター

噴石（スコリア）が飛び散るようす



火山防災訓練のようす



20数年ぶりに行われた噴火を鎮める火口静謐祈願祭。阿蘇山上神社では清め祓いが行われ阿蘇地域の観光関係者などが参列。



福岡管区気象台  
阿蘇山火山防災連絡事務所  
井上 秀穂 所長

### 今回の噴火の特徴は—

阿蘇山では、昨年1月からごく小規模な噴火を繰り返していましたが、11月25日以降、火山灰を連続して噴出する灰噴火や火口縁周辺に溶岩片を噴出するストロンボリ式噴火が見られます。現在、火山性微動の振幅も、依然として大きい状態が続いています。

### 御嶽山との噴火の違いは—

昨年9月の御嶽山の噴火は地下の圧力が増し、周囲の岩石を破壊する水蒸気噴火でしたが、阿蘇山の噴火は地下のマグマが直接噴出するマグマ噴火でした。

### 今後の見通しは—

阿蘇山の噴火活動の特徴として、火山灰や小さな噴石（スコリア）を噴出する噴火が長く続くことがあります。そのためマグマの活動を注意深く監視しているところで、日頃から気象庁が発表する最新の火山情報や山上の風向きに十分ご注意ください。

## 阿蘇山の噴火警戒レベル

予報警報	レベル	火山活動の状況と想定される現象
噴火警報	5 避難	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある ●溶岩流が居住地域に到達、あるいは切迫している。 ※有史以降ありません。
	4 避難準備	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される ●溶岩流が発生し、さらに噴火が拡大した場合には居住地域まで到達すると予想される。 ※有史以降ありません。
火口周辺警報	3 入山規制	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす ●火砕流が発生し火口からおおむね4km以内に到達、あるいは噴火活動の高まりなどにより到達が予想される。 ●火口からおおむね2km以内に噴石飛散、あるいは噴火活動中の火口閉塞などにより噴石飛散が予想される。
	2 火口周辺規制	火口周辺に影響を及ぼす ●小噴火が発生し、火口からおおむね1km以内に噴石飛散の可能性。 ●小噴火の発生が予想される。 <b>現在の阿蘇中岳の状態</b> ※平成26年12月22日現在
噴火予報	1 平常	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出などが見られる。 ●火山活動は静穏、状況により火口内にとどまる程度の土砂噴出などの発生の可能性あり。

## 火山灰から身を守るための対策

【出典：内閣府】

- 外に出るときや、掃除をするときは、マスクをつけましょう。
- 火山灰が目に入ったら、手でこすらずに水で流しましょう。コンタクトレンズをはずして、メガネを使いましょう。
- 火山灰に触れると、皮膚が炎症を起こすこともありますので、注意しましょう。
- 火山灰が降ると、見通しが悪くなったり、道路も滑りやすくなりますので、交通事故には気を付けましょう。

問い合わせ 市役所総務課 防災交通係 ☎ 22-3111

※阿蘇市のホームページでは、阿蘇中岳警戒情報を毎日更新しています。  
キーワード「阿蘇市役所」で検索してください。